

僕は今回の東京大学見学会及び企業訪問で多くのことを学びました。そのなかにはこれからの高校生活や進路選択で生かせるようなことがたくさんありました。僕が特に印象に残っているのは笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共催夏季プログラムと外務省訪問です。

まず、笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共催夏季プログラムは、最初に笹川平和財団理事長であり前国際エネルギー機関事務局長の田中伸男さんのエネルギーにまつわる話を聞きました。その話では、石油などのエネルギーが豊富である中東をめぐる地政学について知る必要があるとおっしゃっていました。前国際エネルギー機関事務局長の田中伸男さんは、日本はエネルギーが比較的貧しい国なので O P E C との付き合いや石油大臣と仲良くなることが大切で、現在サウジアラビアとイランが紛争を繰り返して、中東のエネルギーに頼っている日本は危険だともおっしゃっていました。このことはテレビ番組でも取り上げられていて、僕にも内容がよくわかりました。また、世界の国々のエネルギーに関するかともおっしゃっていました。アメリカは比較的資源に恵まれており、中東のエネルギーをあまり必要としない。それに対して中国やインドは近年発展が著しい国なので、中東のエネルギーを必要としている。ヨーロッパの国々では E U として連携し、各国同士でエネルギーの共有をしたりしている。日本も中東のエネルギーに依存しないようにするため、ロシアからパイプラインをひき、石油やガスをえるという対策をとっている。しかし、パイプラインをひくためには韓国やロシアとの領土問題を妥協する必要がある。さらに中国は原子力発電を増やしており、日本の原子力発電の問題も残っている。福島原子力発電所では多大な損害を受けたが、女川原子力発電所は津波を警戒していたため、10m 高く設置されており、被害をあまり受けなかったらしい。このことより東日本大震災での失敗は人選ミスだったなど国際のエネルギーについての問題をおっしゃっていました。僕はこの話を聞いて日本の問題について考えるようになりました。4年後に東京オリンピックをひかえた日本は多くの問題を抱えています。その中には 2020 年までに解決しなければいけない問題もあります。エネルギー問題は東京オリンピックが終わった後にもつながる重要な問題だと思います。もともと資源が乏しい日本にとってそれは解決するのは難しいと思います。しかし、その問題に立ち向かわなければ、日本は前進できないと思います。これらの問題を解決しようとするのがこれからの日本を変えるには必要だと思います。その話を聞いた後、グループセッションがあり、様々な職業の方々に多くの質問をしました。最初はうまく話すことができなくて講師の方々に助けられていましたが、少しずつ慣れて後半からは質問が飛び交うようになり素晴らしいグループセッションになったと思います。その中でも印象に残ったのは僕の考えた質問で「グローバル化にどう対応をすれば良いのか？」という質問でした。その回答は「東西の対立がなくなったことで外国から安い労働力が入ってきた。また外国で安い製品を作る必要がある。このグローバルリゼーションは、後戻りはできないので、それに勝てるよう英語ともう一つ他の言語を身につけるようにするべきだ。」というものでした。これからの社会は情報化が進み、より多く情報が共有されるようになるでしょう。その中で正しい情報を選び、自ら新しい考えを出せる人になりたいです。笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース夏季プログラムでの講演は前国際エネルギー機関事務局長の話を聞いて、とても貴重な体験ができて良かったです。また次に行われたグループセッションでは僕の知らない世界を知っている人たちの体験談を聞き、世界が広がったような気がします。次は外務省訪問です。

外務省訪問には 20 人近くの志の高い人がいました。最初は外務省に勤めている二高 OG の方の話を聞

きました。二高OGなだけあって話の多くが共感できる場所があり、話の内容もとてもおもしろいものでした。その方がどのような経緯で外務省に就職してどんな活動をしているのかなどを聞きました。その方は一年間浪人して東京大学文科3類に合格し、卒業して外務省に就職したとおっしゃっていました。その話を聞いて外務省に入るにはやはり国立難関校を卒業していなければいけないのかと質問したところ、「やはり良い大学をでていないと厳しい。」とおっしゃっていました。さらに、「英語ともう一つ話せる言語は必要。もしくは専門的な言語があると良い。」ともおっしゃっていました。このことは前日の笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース夏季プログラムのグループセッションで言われたことと共通していて、驚いたとともに改めて「英語ともう一つ言語を話せるようになること」の重要性を理解しました。また外務省は外交に関する仕事であるため英語を話せる人が多く、その方は二高で英語部に所属していて英語には自信があったが外務省に就職してから他の言語を話せる人や帰国子女で英語がペラペラな人がいて少し自信をなくしたそうです。この話を聞いた場所は実際に外務大臣が放送をしている場所ということを知り、驚きました。ここで外務大臣が話しているんだなと思うとなんだかおもしろいと感じました。こんな場所に招待させていただいて本当に貴重な体験ができているんだなと思いました。最後に外務省の実際に国際会議が行われている場所で話を聞きました。テレビでみたような椅子やテーブルで、本当の会議のようにマイクで会話をしたので、新鮮な気持ちでした。その会話のなかでは外務省は英語を話せない人でも就職できるのか外務省と国連の違いがわからないなど多くの質問が出されました。外務省には様々な人がいることを知れてよかったです。外務省とジャイカとの違いは僕も知らず、興味深い質問でした。外務省というのは、国内で外交についてを会議したりすることが主な仕事である。その一方でジャイカは主に国外を拠点とし、現地で活動する。この話を聞いた友達は「外交関係について興味があったが、この話を聞いてさらに深く考えるようになった。またジャイカと外務省の違いを知れてよかったです。これからの進路生かしたい。」と言っていました。外務省はグローバル化する世界においてこれから重要になるところだと確信しています。

アメリカの大統領選挙があるなかで日本がこれから世界の色々な国々に関わると思います。そのなかで世界の人よりも大人しい日本人は積極的に動かなければいけません。インドや中国の人々はもっと自分の意思をもち、積極的に発言をする。これは世界的には当たり前のことで日本人ができていないことなのだと思えます。もし僕が外務省で働くようになったら、多く自分の意見を言い、日本を変えるような姿勢で臨みたいです。この外務省訪問では知らなかったことがたくさんあり、これからどんな職業につくか、またこれからどんな進路に進むかの参考にしたいと思えます。今回の東京大学見学会及び企業訪問ではこれからの学校生活にいかせることをみつけることができました。これからの人生であるかないかの経験をたくさんでき、満足しました。僕はどんな道を進んでいるかはわかりませんが、その進路に良い影響を与えているとは思っています。